

宿題はわすれたくない！

『先生、しゅくだいわすれました』を読んで

桜町小・4 伊藤 きい

この本は、クラスのみんなが宿題をわすれるために、いろいろな言いわけを考える話です。読んでみたいと思った理由は、題名を見てびっくりしたからです。わたしは、あまり宿題をわすれたことがないので、

「先生、宿題わすれました。」

と、言うのは少し勇気がいります。どういう気持ちでそうやって言うのかなと思って、この本を選びました。

びっくりした場面は、「宿題わすれました。」と言ったら、先生はおこるのではなくて、

「ちゃんと聞いた人がうそと分かって、クスツと笑えるような言いわけじゃないとだめでしょう。」

と笑って言ったことです。わたしの考えでは、「わすれました。」と言ったら、「これからは気をつけて。」としかられたり、休み時間にやらされたりすると思うていたから、この先生はおもしろい考えをする先生だなと思いました。どうしてそう言ったのかな、と不思議に思いました。

わたしも本の中みたいに、先生にゆるしてもらえそうな言いわけを考えてみました。

「上から糸がたれてきて、宿題だけ取られてしまいました。」

「下校とちゆうに、風で宿題だけが飛ばされてしまいました。」
「となりの家に住んでいるヤギに食べられました。」

でも、みんながクスツと笑ってしまうようなおもしろい言いわけを考えるのは、時間がかかって意外とむずかしいです。(宿題は、集中してやれば十分で終わるのに、言いわけを考えるのは、二時間もかかるんだから、ちゃんと宿題をやったほうが速いの。)と、思いました。そしたら、本の中でも、おもしろい言いわけが思いつかないから、宿題をやったほうが速いという子がたくさん出てきました。

この本では、最初から最後までみんな順番に宿題をわすれていたけれど、わたしは宿題をよくわすれたり、わざとわすれたりすることはないと思います。でも、どうして、この先生は、みんなが宿題をわすれてもおこらないんだろう……。うそだって分かっているのに……。

最後には、先生が宿題のプリントを作りわすれてしまいました。(先生もわすれたんだ!)と、おどろいたけど、その言いわけが、こわくて長くて一番おもしろかったです。先生は子どもたちに、プリントを作るのをわすれてもしかたないと、なっとくさせました。これからも、ときどき宿題を作るのをわすれてほしいと言う子どもたちと、

「うーん、そうねえ。でも、宿題をわすれるのって、けっこう大変なのよねえ。」

と、話したときに、わたしは、(なるほど、そういうことか!)と、ようやく分かりました。先生は、みんなに宿題はやったほうがいいと思わせるために、宿題よりも大変な言いわけを考えさせたのです。わたしのクラスにも、宿題をいつもわすれてくる子がいます。たん

にんの先生に、ぜひこの本をおすすめしたいです。